

大分県

作業療法士連盟NEWS

平成29年大分県は選挙の年だ！！

豊後高田市長選挙
4/16竹田市長
議会議員選挙
4/16豊後大野市長
議会議員選挙
4/16杵築市長選挙
10月由布市長
議会議員選挙
10月大分市議会議員選挙
2/19佐伯市議会議員選挙
4/9

特集：続！就労支援

見る 済



聞く 済



学ぶ



大分県作業療法士連盟 研修会

『作業療法士の

強みを生かす就労支援』

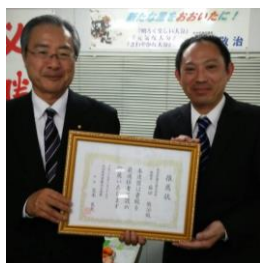


大分市議会議員選挙

藤田敬治氏

当選!!

3,581票獲得
30位/49名中



＜藤田氏に 推薦状の交付＞

藤田氏は、自立支援型のリハビリテーションを市政に取り入れようとしています。先進的な取り組みを行っている、埼玉県のと光市を視察に行くなど積極的に行っています。これらの面を高く評価し、応援しました。

衛藤延洋氏

初当選!!

4,082票獲得
16位/49名中



＜衛藤氏に 推薦状の交付＞

衛藤氏は、地域医療に精通しており、作業療法士が地域医療に必要と感じている事などを意見交換で確認し、推薦しました。当選後も地域ケア会議の自立支援に向けてのあり方について意見交換会を実施しました。

作業療法士の皆さんへメッセージ!!

『作業療法士さんの臨床力に期待!!』

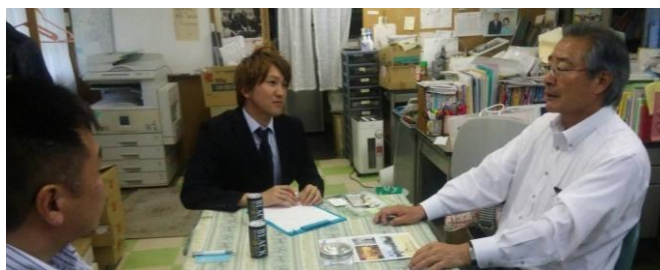
大分市議会議員 藤田 敬治



私は放課後育成クラブの役員をしています。上手く適応できずにいる児童がいます。なぜこの子が落ち着けないのか？という環境調整をしたり関わり方に注意が必要か？作業療法士さんに来ていただいて、共に考えてもらいたいと感じています。

また、高齢者の施設の役員もしているのですが、まさに作業療法士さんが活躍する場だと感じています。私は、高齢者の自立支援の体制を実現させたく、県外の施設なども視察へ行ったりとしています。そこの施設では、行政が主導で作業療法士さんなど専門職の方と個別の自立支援を行っていました。

作業療法士さんの臨床力に期待しています。是非、意見交換を行いながら元気な大分市を作ればと思っています。



『藤田氏へのインタビューを終えて』

藤田議員から、多くの考えをうかがうだけでなく、逆に多くの質問を受けました。

「作業療法士さんは、発達障害の子供に対して具体的に何ができますか？」

「精神障害者の地域生活継続支援について何が出来ますか？」

質問に具体的事例を出して返答すると、「なるほど!!」「作業療法士さんもっと多くの場所で活躍せんといかんじゃないですか!!」と激をいただきました。

『地域包括ケアシステムに

作業療法士が必ず必要!!』

大分市議会議員 衛藤 延洋



2025年問題といわれる超高齢者社会において、地域包括ケアシステムは、必ず必要となります。

来年は、『介護保険法』『診療報酬』『介護報酬』トリプル改定があり、待ったなしの状態です。

その中で、作業療法士を始めとするリハビリテーション職種の方々に協力してもらいながら進めていく事が大切と考えています。

この考えを、行政（市長）に働きかけ、理解が深まりつつあります。

私は、医療法人（病院、介護・福祉施設）の事務長をしていました。作業療法士さんと一緒に働いた経験があります。ですので、作業療法士さんの専門性は理解しているつもりです。

しかし、一般の市民の方々には、「作業療法士さんって何する人たち？」という感覚がまだあると思います。市民に知って頂くための活動をもっともっとやっていただきたいと思います。その活動に協力できれば嬉しく思います。

また、皆さんに大分市議会の傍聴に来ていただいて、市民の為になる意見をどんどん意見していただければと思っています。

作業療法士さんのさらなる活躍に期待しています。



【大分市議会議員 衛藤氏と意見交換】3月6日

選挙前に引き続き当選後すぐに、意見交換会を実施しました。

最初に(公社)大分県作業療法協会副会長の佐藤孝臣氏より『介護保険下での大分市の現状と課題』について説明を行いました。

大分市の要支援者が、介護保険サービスを利用しても改善率は2%（悪化は20%）という現実、衛藤氏は顔をくもらせていました。

衛藤市議会議員は、「住めば元気になるって長生きできる大分市！日本に誇ることの出来る自律支援サービスがある大分市にしていけます。その為に、作業療法士の皆さんに大分市の“まち”づくりにもっともって協力をお願いします」と力強く話されました。



<2016年11月 協会ビルにて意見交換会を実施した際の写真>

竹田市長・議会議員選挙

首藤 勝次氏 吉竹 悟氏 当選!!



<首藤勝次氏>ホームページより引用

竹田市長「首藤勝次」氏

「自立志向型の地域医療の取り組み」「地域包括支援センターに作業療法士を配置している」などリハ職を活用した先進的取り組みを評価し、応援活動を行いました。



<吉竹悟氏に推薦状の交付>

佐伯市議会議員選挙

富松 万平氏 当選!!



<富松万平氏に推薦状の交付>

佐伯市議会銀「富松万平」氏

「地域医療の政策担当部署の新設を提案」など、地域に根付いた自立支援型の取り組みを評価し応援しました。

竹田市議会議員「吉竹 悟」氏

「ボランティア等の介護サポーター人材育成への取り組み」「介護予防モデル事業への積極的取り組み」など、高齢者と地域社会の関係の回復等、高齢者支援事業を現場主義で取り組んでいることを評価し、応援活動を行いました。

応援活動

- 1：会員への電話連絡
- 2：Facebookやホームページでの広報
- 3：18歳選挙チラシ作製及び配布200部

特集：続！就労支援（就労支援研修会）

参加者100名超！ 作業療法士が行う就労支援とは？

日本作業療法士協会の『第二次作業療法5か年戦略』において、障害者の就労支援は重点事項としてあげられています。作業療法士の積極的な介入が期待されている分野です。

就労支援に携わる作業療法士は少なく、障害者就労・雇用を支援する関連諸施設の方々に、まだまだ作業療法士という専門職種が存在は知られていません。同時に、私たち自身も専門職として、何が出来るのか？作業療法士の専門職の強みを活かした就労支援とは何か？就労支援に携わっていない作業療法士にとって基礎からしっかり確認する必要があります。そこで、今回、実際に就労移行支援を実践し多くの利用者を一般就労へつなげている作業療法士の金川氏を迎え、実践報告をしていただきました。また、就労支援の基礎的な就労移行支援の流れ、関係する制度、連携を取るべき機関等を講義していただきました。

参加者は103名（定員100名で、申し込み多数により途中打ち切り）と作業療法士の就労支援の高さが伺える研修会となりました。参加者に協力いただいたアンケートからも「**作業療法士の役割が明確にイメージできた**」など多くの感想をいただきました。

テーマ：作業療法士の強みを生かす就労支援

日時：平成29年3月19日

場所：コンパルホール400会議室

講師：日本作業療法士協会制度対策部障害保健福祉対策委員会障害者支援班 就労支援チームリーダー

医療法人清風会 就労移行支援事業所

就労支援センター onwArk

サービス管理責任者・作業療法士 金川善衛氏



< 金川善衛氏 >

9：30～13：30 講義

「障害者就労支援の情勢とOTの動向」
「制度と社会資源の使い方」
「就労支援のプロセスの理解」
～アセスメント・マッチング・職場支援～
「就労支援でOTに求められる専門性」

13：30～15：00 事例検討

（仮想ケースを通じて）
「アセスメント」
どのようにアセスメントするのか見当
「就労定着支援」
就労継続のための問題解決方法の検討

就労支援を考える時は、今！！

医療現場、特に精神科医療においてエンパワーメントアプローチをはじめとする、障害者の自己決定権の尊重・社会参加の促進が図られています。この事により障害者自身の一般企業への希望は高まっています。（精神障害者一般就労新規求職者数申込数は、10年前の4倍になっています。）

また、『一億総活躍プラン』を背景として、「リワーク」をはじめとする障害者雇用に積極的に取り組もうとしている社会情勢があります。

就労支援サービスの利用者数の増加

平成20年度と
平成27年度の比較

就労移行支援

15,481人

約2倍

30,985人

就労支援A型

5,941人

約10倍

57,519人

就労支援B型

49,596人

約4.2倍

209,561人

なぜ、右肩上がりのなのか？

就労（医療・福祉etc）の推進力と雇用の牽引力
に勢いがあるから

就労

エイッ！

雇用

ヨイショ！

障害者が
一般企業で
働く



精神障害者の一般企業への新規求職申込件数

平成18年
18,918名

平成27年
80,379名

意識の高さ伺える
4倍以上

就労支援のマネジメントは 作業療法提供に似ている!!

就労移行支援のプロセスと作業療法のプロセスは非常によく似ています。病院・施設で行われている作業療法プロセスを活かすことができます。

就労支援の現場で、作業療法士は、その専門性を活かし就労における様々な問題解決を行うことができます。「より良い環境」「より良い仕事のパフォーマンス」など仕事の『質』の向上に貢献できます。これは、養成教育の段階から対象者を評価し、焦点化。その後、様々な計画を立案・実行し、モニタリングし、再度評価するというプロセスを徹底して行っている成果であり、この過程こそがまさに就労支援過程です。

作業療法士の知識は企業との連携に有効!!

精神障害や高次脳機能障害のある方など医療的な対応が必要な方の就労が進む事で、企業は対応に苦慮しています。そのような場面では、企業側へ医学的な知識を基にした対象者の評価を伝え、そして仕事の作業評価を基盤とし、それを基にしたオーダーメイドの問題解決方法を本人と企業へ提案するといった雇用管理の助言者という役割が求められます。就労支援は、各地域で社会資源サービスが異なり日々変化しています。作業療法士自身が、高い意識を持ち、積極的に関連施設と連携をとっていくことが重要です。今後、障害者・高齢者の「働きたい。社会の役に立ちたい」という思いに寄り添い、生き生きとした職業生活を支援していく作業療法士が地域で活躍することを期待しています。



【事例検討会の様子】

事例を通して、実際の支援を検討しました。

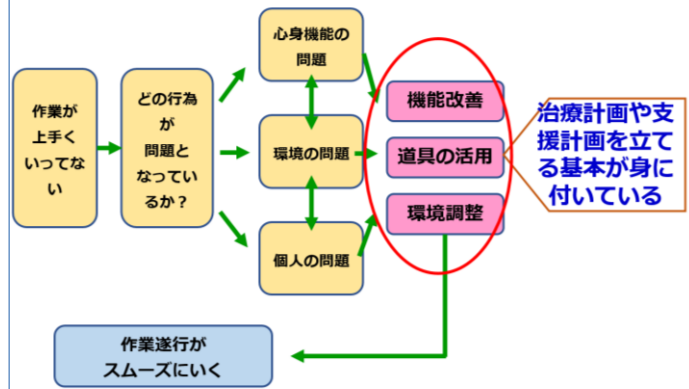
『復職支援事例報告会～職場に戻す作業療法士の力～』への参加

日時：平成29年2月19日 場所：大阪保健医療大学

全国の就労支援の最新の情報を得るべく、同支援の最前線（病院、通所施設、障害者就業・生活支援センター、NPO法人の就労支援事業所等）で活躍している5名の作業療法士の方々の報告を聞いてきました。全国各地から約80名の参加しており、質疑応答も活発で関心の高さが感じられました。「就職＝成功」と考え「対岸」に一気に渡ろうとしていた症例本人や他職種を、もし失敗しても戻れるステージ“中州”へ渡ってみる提案をしている等、的確なマッチングを行っていました。この障害者就業・生活支援センターの方の報告は、作業療法士しか行えない介入と思いました。また、NPO法人の事業所で作業している症例やスタッフの生き生きとした笑顔が印象的でした。この笑顔のために私達作業療法士は、就労支援やそれを取り巻くさまざまな仕組みについて、いま一度勉強しなければならないと痛感しました。

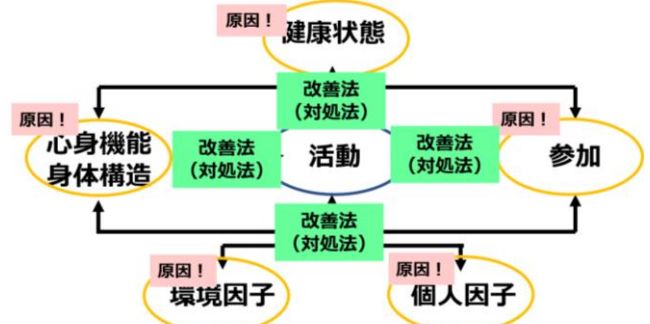
なお、詳細は「日本作業療法士協会誌2017.5月号」に載っていますので是非ご覧下さい。

OTは問題解決の引き出しが多い



OTの持つ医学的知識は企業との連携で有用

パフォーマンスを改善する具体的な対応方法を提案できる



現場が知りたいのは、「どうすれば改善できるのか」
OTは、広い評価視点と改善方法を導くプロセスの教育を受けている

【研修会後アンケート結果】回収率75%

《参加作業療法士の就労支援状況》

24.1%：移行支援・継続支援に直接携わっている

10.3%：就労準備支援に携わっている

65.5%：今後必要性を感じている

アンケート回答者全員が就労支援に携わる高い意識があることが伺えた。

《感想》

「作業療法士の役割や強みの生かし方を学べた」

「現在の職場にいる対象者の就労支援に活かしたい」

「関連支援事業所や行政との連携を行っていく」

「今回学んだ流れを生かす」

etc...



<報告者：木山連盟副会長>

《その他の活動報告》

○大分県理学療法士連盟主催 職能研修会 『小川 克己 参議院議員』
『今後の医療介護の方向性』～リハ専門職としてどう向き合うのか～



＜大分県のPT・OTに講義する小川参議院議員＞

大分県作業療法士連盟と政策協定を結んでいる、参議院議員小川克己氏の研修会が、開催されました。限られた財源の中で、今後の医療介護は何をするべきなのか？時代に求められる専門職とは？国政の立場から話をされました。

また、厚生労働委員会で、『認知症の専門職は作業療法士がいますよ！』と意見を述べたとも話していました。

今後もしリハ専門職の代表として、活躍していただき、保健・医療・福祉の分野の発展・充実に寄与していただきたいと思います。

日本作業療法士連盟総会開催される！

今年で8回目となる日本作業療法士連盟の定期総会と研修会に大分県連盟から2名の幹事が参加してきました。日本協会の会長を始め、全国の県連盟の代表者や担当者が参加しており、来賓には大分県連盟でも意見交換会を行った参議院議員の山口和之氏も招かれていました。

研修会では協会と連盟両会長によるそれぞれ役割や協力体制について議論がなされました。会場からは「作業療法士にも政治的な活動が重要になってくる」等の力強い意見が出るなど、熱気あふれる研修会でした。



＜日本作業療法士連盟総会での集合写真＞

幹事からのコメント



大分県作業療法士連盟
幹事 種子田 秀仁

「作業療法士を社会に向けてアピール！」

私は、回復期病院勤務を経て診療所で地域リハビリテーションに従事しています。地域に出て感じたことは、利用者家族、他施設、多職種への説明力の重要性でした。同時に、作業療法士は高いアセスメント能力が求められる職種だと、改めて感じました。

私が、連盟活動を始めたきっかけは、制度に詳しくなれたらと思ったことです。実際に連盟活動を始めてみると、制度について考えるだけでなく、「社会に向けて作業療法士という仕事をアピール」していく事が重要な活動とわかりました。日々の業務を行っていただけでは、作業療法士の知名度は浸透していきません。素晴らしい仕事をしていても、社会に向けてアピールしないと、誰も気が付いてもらえず、職域も守れません。

皆さんも、連盟活動を通じ、アピールしていきませんか？まだ、会員になられていない方がいらっしゃったら、ぜひ、会員になって、個人の力を組織の力として一緒に頑張りたいと思います！

「私たちは大分県作業療法士連盟の活動を応援しています!」

	株式会社ライフリー
	大分市毛井553-1 デイサービス楽 TEL:097-529-9025

	いまみや補装具サービス
	大分市花津留1-2-18 TEL:097-574-8432

	佐々木写真館
	豊後大野市三重町赤嶺 1186-70 TEL 0974-22-0046

	大分市王子町7-1NIKKOビル1F TEL:097-533-1010
--	--

	有限会社大分タキ
	TEL 0977-67-6538

事務局: 〒870-0124 大分市大字毛井553-1
(デイサービスセンター楽内)
TEL: 097-529-9025 FAX: 097-520-1765

その他の応援活動や詳細はホームページをご覧ください

<http://www.oita-otrenmei.com/>